
六本木アートナイト 2022 [インクルーシブ・アート・プログラム]

実施報告書



©Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro

六本木アートナイト実行委員会



1. 本事業の概要

六本木アートナイトでは2018年度より、さまざまな人たちと六本木アートナイトを巡る「インクルーシブ・ツアー」を開催している。今年度は、2020年度、2021年度のコロナ禍による中止を経て3年ぶりに開催する六本木アートナイトであったが、これまで実施してきた現場で実際の作品を鑑賞するツアーに加えて、コロナ禍で広く普及したオンラインによる鑑賞プログラムを企画、「インクルーシブ・アート・プログラム」として2つのプログラムを実施した。

企画協力：NPO法人エイブル・アート・ジャパン（以下、エイブル・アート・ジャパン）

〈プログラム詳細〉

インクルーシブ・アートプログラム

プログラム① オンライン鑑賞会「みんな de おしゃべり鑑賞会 -六本木アートナイト-」

日時：9月18日（日）18:00～20:15

会場：オンライン

対象：鑑賞ツアーに関心のあるすべての人（定員10名程度）

参加方法：Zoomを使用

※手話通訳あり

プログラム② 鑑賞ツアー「鑑賞ツアー de 大冒険！ -六本木アートナイト-」

日時：9月19日（月・祝）14:00～16:00

会場：六本木アートナイト会場各所

対象：鑑賞ツアーに関心のあるすべての人（定員10名程度）

※手話通訳あり

〈目的〉

- ・六本木アートナイトをインクルーシブ（社会包摂的）にするためのプログラム実施
- ・障害のある人の「ために」ではなく、障害のある人やさまざまな人と「ともに」活動することで、新しい価値創造についての気づきを得る機会とする
- ・より多様な参加者が物理的・心理的バリアーを感じず参加できるようにする
- ・多様な人たちとの対話鑑賞により、新たな鑑賞の視点を得る

※「対話鑑賞」＝美術鑑賞を、言葉を使ってやりとりしながら、作品を深く感じる試み

2. プログラム実施詳細

プログラム①オンライン鑑賞会

「みんな de おしゃべり鑑賞会 –六本木アートナイト–」

オンラインでの作品鑑賞会。視覚障害、聴覚障害のあるリードユーザーとともに、対話による作品鑑賞を行った。実際の六本木アートナイト会場と映像をつなぎ、現地の雰囲気も伝わる内容とした。

日時：9月18日(日) 18:00~20:15

会場：オンライン

対象：鑑賞ツアーに関心のあるすべての人(定員10名程度)

参加方法：Zoomを使用

参加者：9名(聴覚障害者2名、視覚障害者1名)

※手話通訳あり

●実施体制

全体リードユーザー：光島貴之(視覚障害/現代美術家)、西岡克浩(聴覚障害/美術と手話プロジェクト代表)

グループリードユーザー：山川秀樹(視覚障害)、西岡克浩

手話通訳士：和田みさ、村山春佳

サポート：亀井友美、高内洋子

進行・テクニカル：エイブル・アート・ジャパン

●鑑賞作品

- ・magma「ROCK'N」
- ・檜皮一彦「HIWADROME TYPE ε」
- ・メインプログラム「ドラえもん」

●タイムスケジュール

- ・挨拶・趣旨説明・鑑賞上のお願い・参加者自己紹介(10分)
- ・ブレイクアウトルームに分かれて鑑賞(60分)
- ・休憩(7分)
- ・ヒルズアリーナ中継~メインプログラム作品鑑賞(40分)
- ・全体での振り返り・意見交換(15分)

●進行のポイント

視覚障害、聴覚障害の人とのコミュニケーションや、手話通訳を円滑に行うためのポイントを、最初に参加者に伝えた。発言者を明確にし、誰の発言かが分かるよう「挙手をして名前を言ってから発言すること」や「普段よりもゆっくり・はっきりと話すこと」を共有したのちに鑑賞を開始。

1) 全体の共有事項

聴覚障害者との鑑賞を楽しむ工夫

- ・基本的に名前を言ってから話す
- ・発言の前に名乗ることで手話通訳と音声言語のテンポを合わせることができる。
- ・話すスピードが速くなると参加者が会話の流れに置いてきぼりになる可能性があるためゆっくりと。

視覚障害者との鑑賞を楽しむ工夫

- ・できるだけ説明的に話してもらうとイメージが湧きやすい。

手話通訳の画面表示について

- ・スポットライト機能を使用して手話通訳者と話者を固定する。※スタッフで操作

2) 発言のルール

参加者が話すときのルール

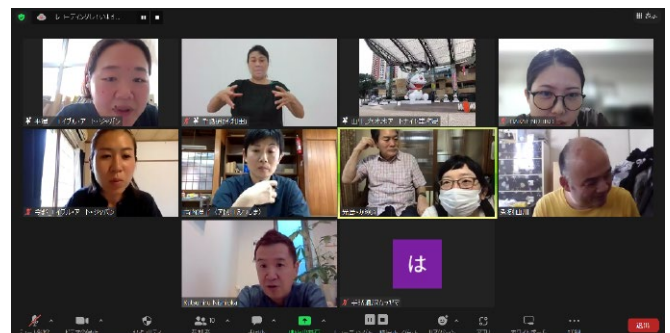
- ① 参加者が発言したいとき:手を挙げて「はい」と言う→司会やサポートから名前を呼ばれる→話す
- ② リードユーザーやサポートから直接名指しされる→話す
※司会やサポーターが名指しのために発言するときは、名乗らなくて良い

主催側が話すときのルール

- ・手を挙げて「はい」と言う→司会やサポートから名前を呼ばれる→話す
※司会やサポーターが名指しのために発言するときは名乗らなくて良い

【当日の様子】

視覚障害、聴覚障害などそれぞれ異なる鑑賞条件のもと相互に言葉と手話で鑑賞するという試みだった。鑑賞作品を重ねるごとにだんだんと参加者の発言も活発になり、それぞれ異なる作品の見え方・感じ方が共有された。司会が参加者に満遍なく発言を促すことで、参加者全員が考えや感想を共有できる場となった。また参加者同士やファシリテーターへの鋭い質問などにより、鑑賞体験がより深まる時間となった。対話鑑賞が初めてという視覚障害の参加者からは、とても楽しかったという声も聞かれた。



事前打ち合わせの様子

「鑑賞ツアー de 大冒険！ -六本木アートナイト-」

六本木ヒルズ内を中心に、六本木アートナイト作品を鑑賞するツアーを実施。視覚障害、聴覚障害のあるリードユーザーとともに、言葉や手話による対話鑑賞を行なった。

日時：9月19日(月・祝) 14:00～16:00

会場：六本木アートナイト会場各所

対象：鑑賞ツアーに関心のあるすべての人(定員10名程度)

参加者：15名(視覚障害3名、聴覚障害2名、身体障害2名、介助者4名)

※手話通訳あり

※インカムを使用

※希望者には筆談ボードを配布

●実施体制

リードユーザー：井戸本将義(視覚障害)、南雲麻衣(聴覚障害/ダンサー)

手話通訳士：佐藤晴香、丸山垂穂、和田みさ

ラーニングキュレーター：白木栄世(森美術館)

進行：エイブル・アート・ジャパン

●鑑賞作品

- ・three「Tokyo's Landscape」
- ・檜皮一彦「HIWADROME TYPE ε」
- ・メインプログラム「ドラえもん」

●タイムスケジュール

- ・挨拶・趣旨説明・鑑賞上のお願い(5分)
- ・参加者自己紹介(15分)
- ・移動～
- ・作品鑑賞① three「Tokyo's Landscape」(15分)
- ・作品鑑賞② 檜皮一彦「HIWADROME TYPE ε」(20分)
- ・作品鑑賞③ メインプログラム「ドラえもん」(20分)
- ・全体での振り返り・意見交換(15分)

●進行のポイント

- ・インカムを使ってファシリテーターおよび参加者の発言を全員に共有し、同時に手話通訳で聴覚障害者へも情報提供を行なった。
- ・ツアー開始前に、鑑賞時のお願いを共有。
- ・発言時のルールを設定。「手を挙げる→マイクをもつ→名前を言う→発言」

- ・聞こえない人・聞こえにくい人から手話が見えるよう、立ち位置に配慮。移動後は「手話は見えますか？」と確認してから話を進める。
- ・聴覚障害のあるファシリテーターから鑑賞作品の視覚情報を共有したのち、視覚障害があるファシリテーターから参加者に問いかけをして、作品のイメージを膨らませながら相互に言葉で鑑賞を深める。

【当日の様子】

冒頭は全員で輪になり、自己紹介として「呼んでほしい名前とチャームポイント」を発表。それぞれの個性が伝わり参加者同士の距離も縮められる時間となった。作品鑑賞では、言葉と手話によって作品を説明し、参加者への問いかけを行いながら鑑賞を深めた。視覚的な作品中心だったが、聴覚障害者からメインプログラムの「ドラえもん」の声についての質問があり、言葉で声のイメージを共有するなど相互にコミュニケーションをしながら鑑賞を行った。事前に配布した筆談ボードを使って参加者同士でコミュニケーションする姿も見られた。

最後の振り返りでは、感想や楽しかったというコメントと共に、もっとこうなったら良いという点なども参加者から共有され、今後につながる時間となった。

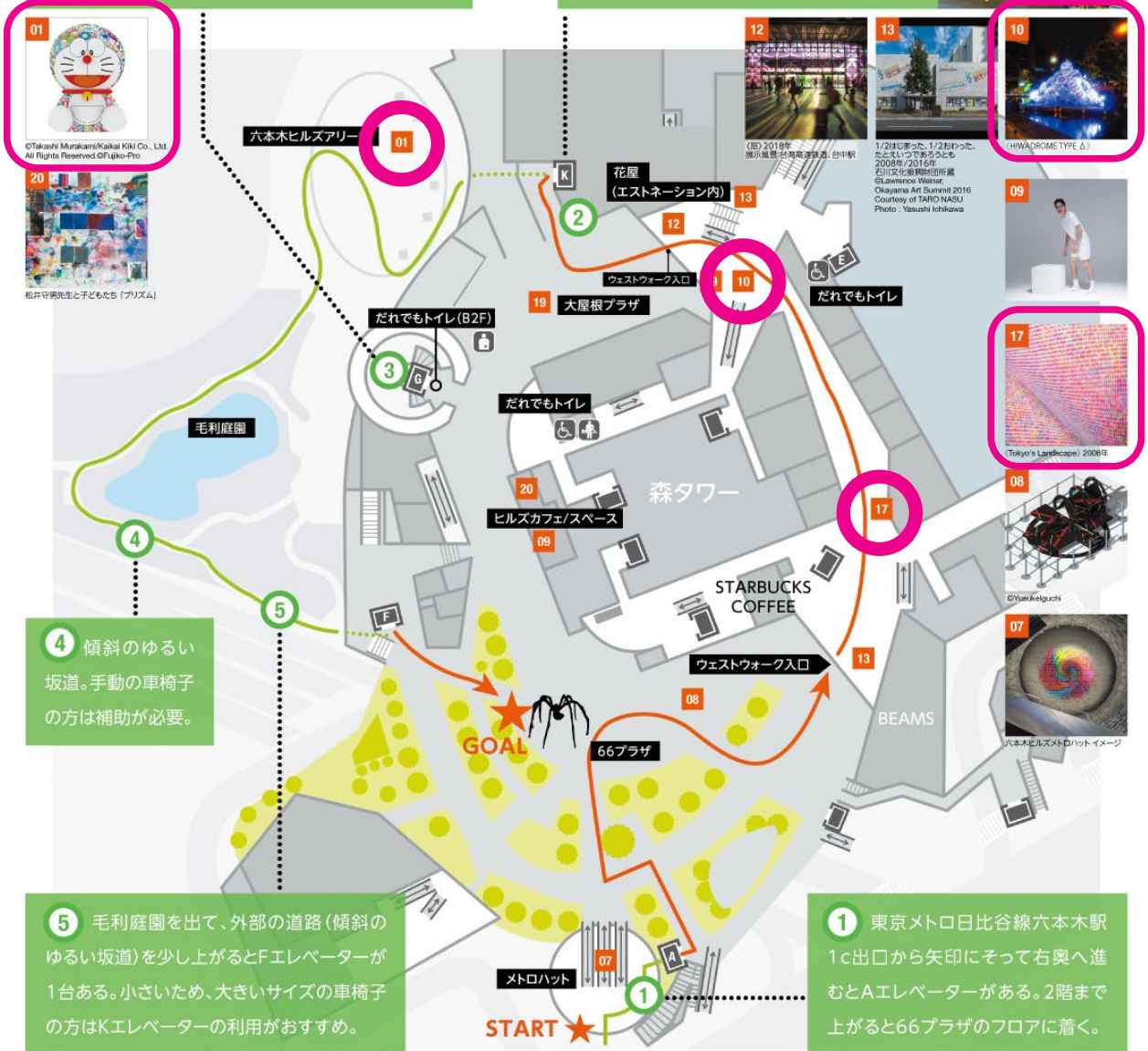


● ツアールート

○ □ は鑑賞作品

3 利用頻度が高いGエレベーターは、待ち時間が長いですが、大きな車椅子でも利用可能。3階から森美術館へアクセスできる。

2 花屋を右手に見ながら右折し、奥の入り口に入るとKエレベーターが2台あるので、地下2階六本木ヒルズアリーナへ移動。



4 傾斜のゆるい坂道。手動の車椅子の方は補助が必要。

5 毛利庭園を出て、外部の道路(傾斜のゆるい坂道)を少し上るとFエレベーターが1台ある。小さいため、大きいサイズの車椅子の方はKエレベーターの利用がおすすめ。

1 東京メトロ日比谷線六本木駅1c出口から矢印にそって右奥へ進むとAエレベーターがある。2階まで上がると66プラザのフロアに着く。



- 01 メインプログラム 07 デイジーバルーン「Wave」 08 井口雄介「KALEIDOSCOPE」 09 ノラ・デザインコレクティブ「つかの間」 10 檜皮一彦「HIWADROME TYPE ε」 12 マイケル・リン「窓」
- 13 ローレンス・ウィナー「HERE FOR A TIME THERE FOR A TIME & SOMEWHERE FOR A TIME」 17 three「Tokyo's Landscape」
- 19 「HIBIKI THE HARMONY」※ご飲食の際は料金がかかります。※9/17、18 16:00~22:00 9/19 12:00~18:00
- 20 NPO法人 虹色の風「NO BORDERS—画家松井守男とアート仲間たち—」※9/13~9/16 11:00~20:00 9/17、9/18 11:00~22:00 9/19 11:00~18:00

3. ツール展開

① バリアフリーマップ

過去のリサーチの蓄積を生かし、バリアフリーマップを作成。印刷して各会場にて配布するとともに、ウェブサイトで公開。より多くの人に、自由にバリアフリールートを楽しんでもらえることを目指した。

【作成のポイント】

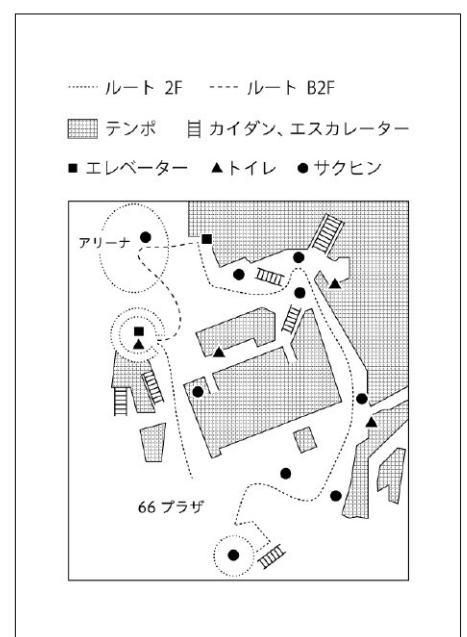
- ・ エレベーターの位置、利用頻度
- ・ トイレの位置
- ・ 駅へのアクセス方法
- ・ 坂の傾斜
- ・ 目印の確認



©2022 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.
 ©MADSAKI/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.©Fujiko-Pro
 ©Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.©Fujiko-Pro

② ルートマップ立体コピー

視覚障害者と一緒に六本木ヒルズ内を巡る際に、「どこをどのように回っているのか」を実感してもらえよう、ルートマップを立体コピーにて作成。



※印刷協力：特定非営利活動法人視覚障害者パソコンアシストネットワーク

4. 成果と課題

【全体】

今回のプログラムは、視覚障害者と聴覚障害者が一つの企画で一緒に鑑賞を行うという、とてもチャレンジングな取り組みだった。様々な人と鑑賞を楽しむために、必要な配慮や進行方法、ルール等に関して、共に探求したり実践したりすることが一定程度行え、また参加者からも楽しかったという声を得られたことは、一つの大きな成果であると考えます。

参加者からは、鑑賞後やアンケートで多くの感想や意見が寄せられた。情報保障があることや、自分とは異なる見方・感じ方をする人と意見交換しながら鑑賞することができる貴重さ、楽しさへのコメントも多く寄せられた。一方で改善点や配慮へのアドバイスもあり、今後のプログラム実施につながる具体的で貴重な情報が得られた。

〈鑑賞ツアー〉

- ・ファシリテーターだけでなく参加者の発言もマイクで話してもらい全員に共有することで、取り残される参加者を作らずに進行することに配慮した。
- ・多様な特徴を持つ人が同時に参加する中で、すべての人に対して情報保障や配慮を平等に行うことの難しさもあった。鑑賞ツアーでは聴覚障害の参加者へ手話が見えることへの配慮を意識していたことにより、視覚障害者が遠くに位置したり発言しにくくなってしまいう傾向が生じてしまった。それぞれへの配慮が、新たなバリアを生まない工夫が必要である。
- ・参加人数が多く、発言の機会の偏りなど、十分に配慮が行き届かなかった部分もあった。人数を絞ったり、複数グループに分けるなどの工夫も検討が必要。
- ・低身長の参加者からは、「低い目線と高い目線のみかたも今後意識してほしい(目線の高さ／低さを意識した情報提供や、低い目線を体験するツアーなど)」というコメントがあった。今回のツアーでは視覚障害・聴覚障害への配慮に偏っていたことへの反省や、障害のある人にとって作品を鑑賞するための求めている情報、視点の提供の必要性に違いがあることへの気づきがあった。
- ・参加者へ配布した参考資料について、見える人には「作者・作品名・作品紹介」、見えない人には「立体マップ・作者・作品名(点字)」となっており、提供情報に差がでてしまっていた。障害の有無によって提供される情報に差が出ることがないように配慮が必要。
- ・企画段階では手話通訳2名体制での実施を予定していたが、下見の際に情報の混乱や役割分担に関する課題が発生したため体制を再検討。聴覚障害者のファシリテーター・参加者の手話を読み取る人、視覚障害者のファシリテーターの言葉を手話表出する人、参加者の言葉を手話表出する人、と役割を明確化し、当

日は3名体制での実施に変更した。事前の下見とテストが本番での改善につながった。

〈オンライン鑑賞〉

- ・Zoomによるオンライン鑑賞では、視覚障害者、聴覚障害者がそれぞれ発言している際にお互いの状況が直接はわかりにくい（言葉／手話と使用方法が異なるため）、全体の進行や発言順を調整するファシリテーションが重要だと気づきがあった。気づきに伴い、発言のルールを定めるなど具体的な対策を取り入れることができた。
- ・鑑賞中、サポートスタッフが「参加者のうち誰が何回発言したか」をカウントし、その状況を司会役に共有することで参加者全員がまんべんなく話せるような配慮を行なった。
- ・オンライン鑑賞では2名の手話通訳士が伴走。通常手話通訳の交代は15～20分だが、2名の手話通訳士が2つのブレイクアウトルームに分かれたため、その中での鑑賞時間（約1時間）手話を振りっぱなしという状況が生じてしまった。正確な情報保障のためにも、進行に合わせた体制の検討が必要である。

〈事前準備〉

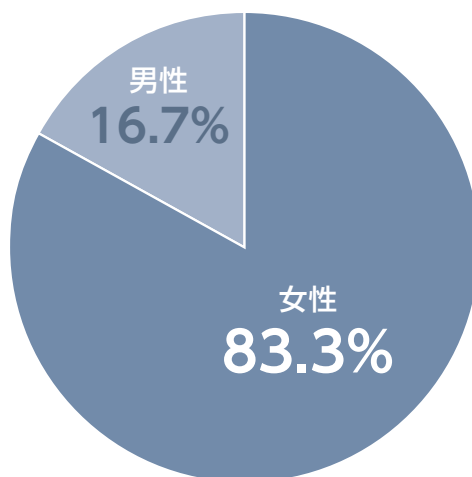
- ・オンラインの打ち合わせ、下見、メール等を中心に準備を進行。ファシリテーター同士で鑑賞トライアルなども行うことで、事前に課題の洗い出しやどのように進めるかを具体的にイメージしながら企画検討につなげた。
- ・打ち合わせ段階から、視覚障害者、聴覚障害者、健常者、手話通訳者と様々な属性の人たちが参加することで、議論のすれ違いがおこるなど難しさもあったが、そこで確認された問題から、その後の進行方向の検討や発言のルールなどを具体的に検討することにつながった。
- ・企画打ち合わせでの手話通訳の役割について、通訳としての手話通訳者と、企画内容に対して意見をもらうための手話通訳者がそれぞれ必要。同時に両方の役割を担うことはかなり負荷が大きかった。

5. アンケート結果

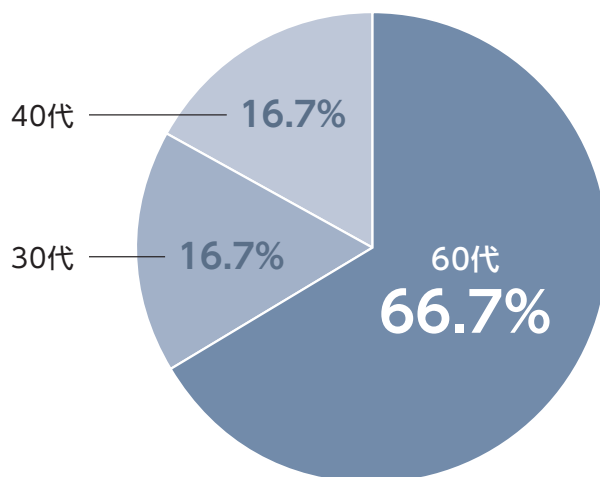
プログラム①オンライン鑑賞会

「みんな de おしゃべり鑑賞会 -六本木アートナイト-」

① 性別 (6件の回答)



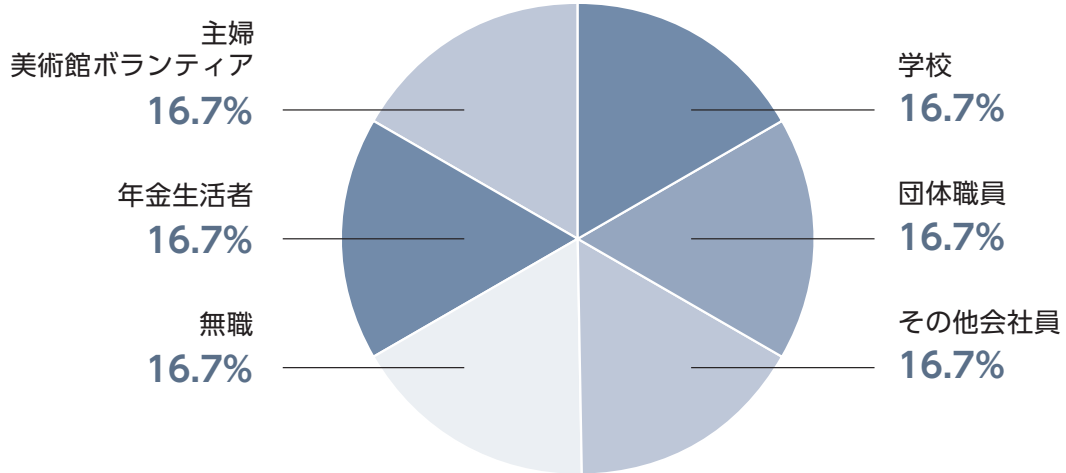
② 年齢 (6件の回答)



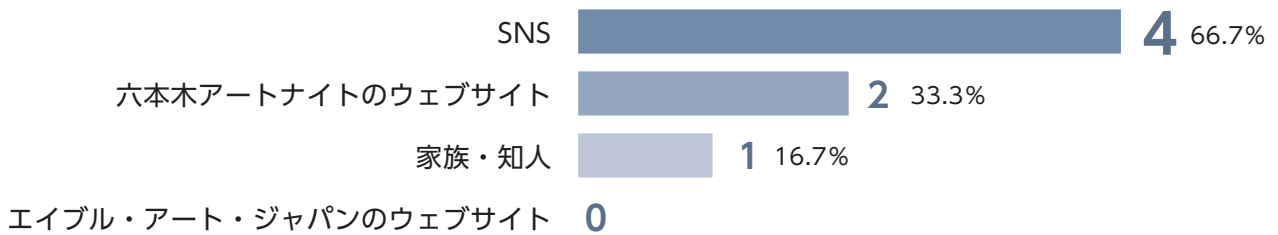
③ 居住地 (6件の回答)

大阪府、埼玉県、千葉県、群馬県、神奈川県、新潟県

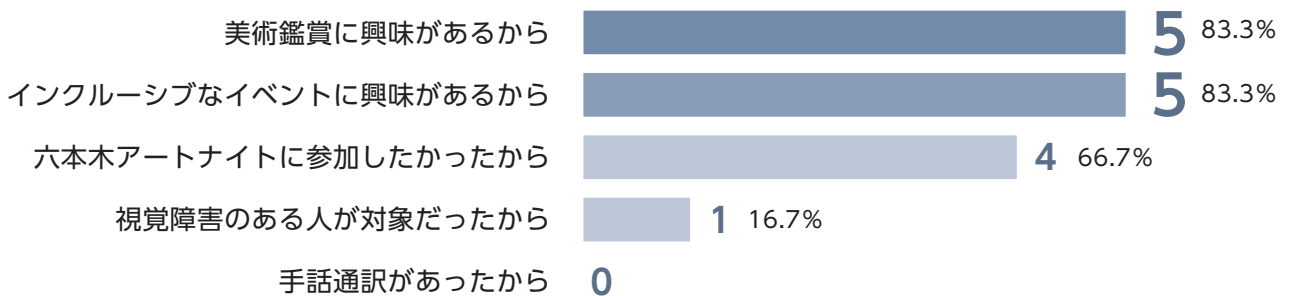
④ 所属 (6件の回答)



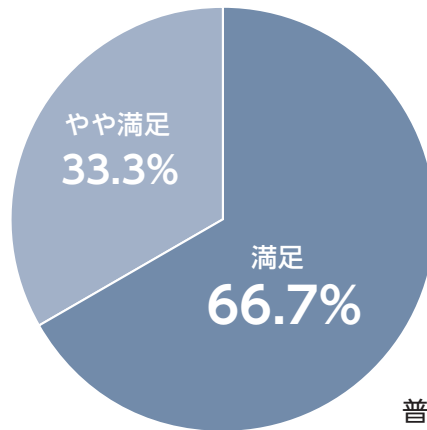
⑤ 本プログラムをどこでお知りになりましたか (6件の回答)



⑥ 本プログラムに参加しようと思った動機は何ですか (6件の回答)

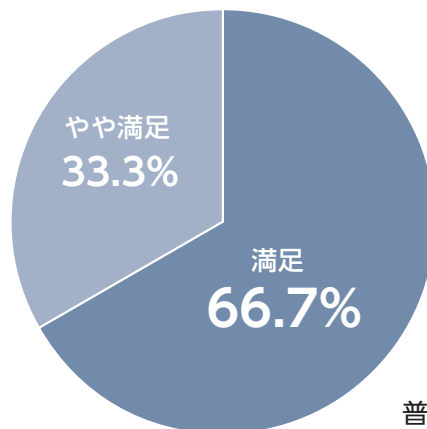


⑦ プログラムの内容についてお伺いします。
鑑賞会の長さはいかがでしたか。(6件の回答)



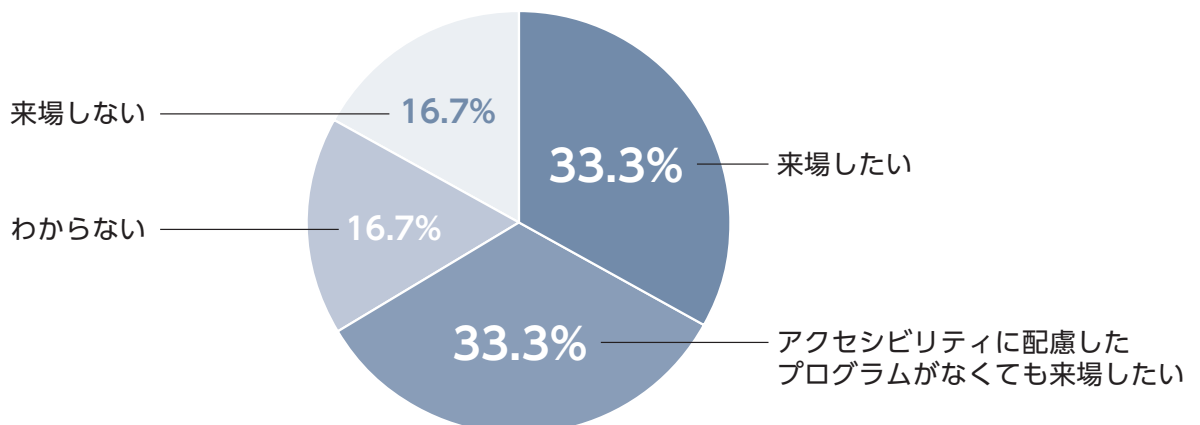
普通／0% やや不満／0% 不満／0%

⑧ プログラムの内容についてお伺いします。
作品鑑賞についてはいかがでしたか (作品選定や鑑賞内容、鑑賞時間など)



普通／0% やや不満／0% 不満／0%

⑨ 次回開催した場合「六本木アートナイト」に
アクセシビリティに配慮したプログラムがあれば来場して頂けますか



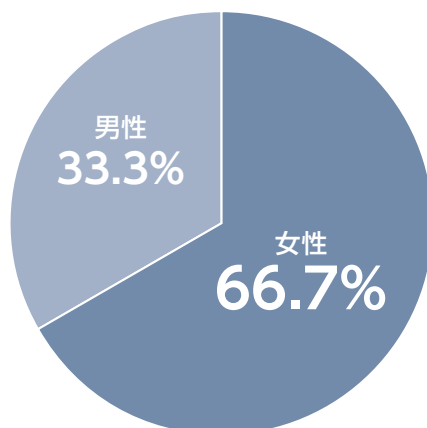
ご意見・ご感想

- ・対話型鑑賞は作品選定も大事だそうですが、選定された作品がよかったです。
また、視覚障害の方も一緒だったので、どのように作品を叙述するかも考えるためさらに作品をよく観ようという経験ができました。
- ・現代アートとインクルーシブ鑑賞の相性の良さ(自由に見て感じる感性)、いろいろな人と作品を見ることで発見する気付き、楽しませていただきました。立体作品はぐるっと回って他方向から見るのがいいですね。それに加えてみんなそれぞれが見えない部分を想像するのも大切にしたい。動画の部分に周囲の音(車の音や人の話し声など。自分にはぼんやりとしか聞き取れないのですが人の行き交う場の賑やかさは伝わります)が入っているのも作品の置かれている空間を理解する一助になっていたと思います。五感、いや第六感を使ってアートを感じる体験、これからも磨いていきたいです。
- ・多様な障害のある方との鑑賞会でしたが、設計がとても丁寧に行われていると感じました。特に手話者を入れていたのがよかったと思います。
今回の障害のある方はプロ級の経験者だったので質問も的確で理解が早かったですが、そういった方をつなぎ役的に配するのも有効だと思いました。
また、自分で発言をしながら、鑑賞会が初めての方や先天盲の方には色や素材の表現をさらに気をつけないと伝わらないだろうとも感じました。
いろいろ学びになりました。
- ・もう少し作品数が多くても(あと1つぐらい)良かったかなと思いました。ファシリテーターの方のファシリが丁寧でとても良かったです。
- ・3年前も現地で参加して充分楽しかったのですが、今年はろう・難聴者の方もいらっしゃって、よりインクルーシブになっていて、コロナ禍のあいだにも時代やアート業界が前進していることを感じられて、嬉しい気持ちになりました。
- ・大きなサイズの作品が観られること、街中にあるアートが見られること、昼と夜の違いが比較できること、画像と動画の印象の違いなどが、美術館や地方の芸術祭とは違う、六本木アートナイトならでは、オンラインならでは面白かったです。
村上隆などの有名作品は、普段ネームバリューや作品のイメージに捉われてしまうんですが、素直にフラットな目線で作品を観ることができたのは、違う感覚を持つ者同士の対話型鑑賞のメリットだと感じました。最後にはドラえもんが、ねぶた祭りのように見えていました。

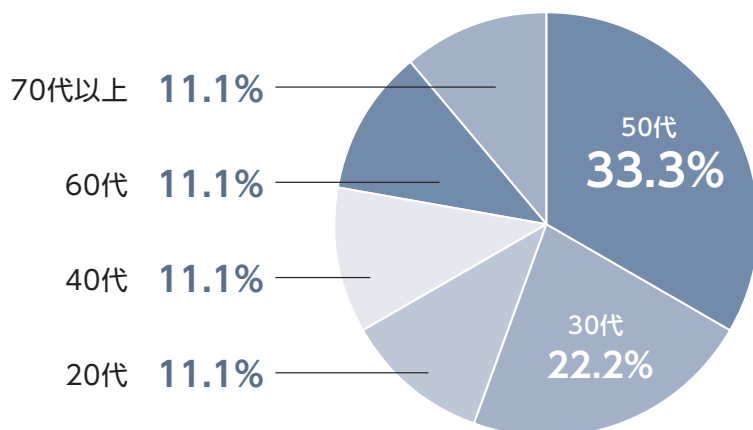
プログラム②鑑賞会ツアー

「鑑賞ツアー de 大冒険！ -六本木アートナイト-」

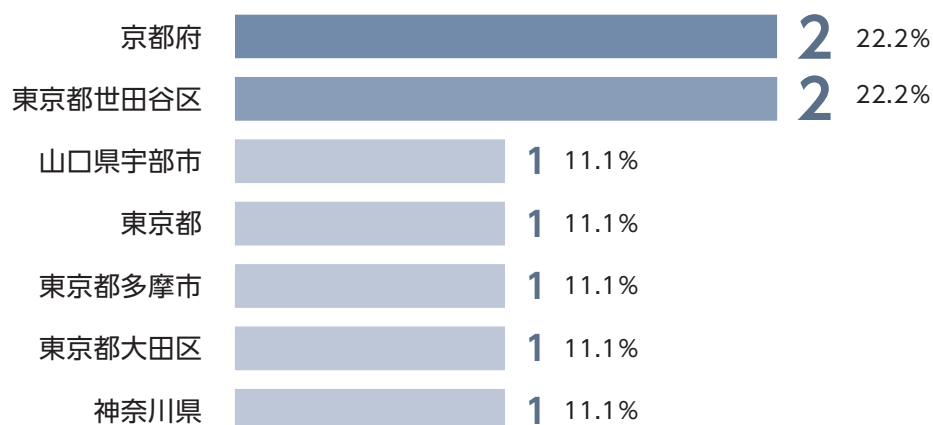
① 性別（9件の回答）



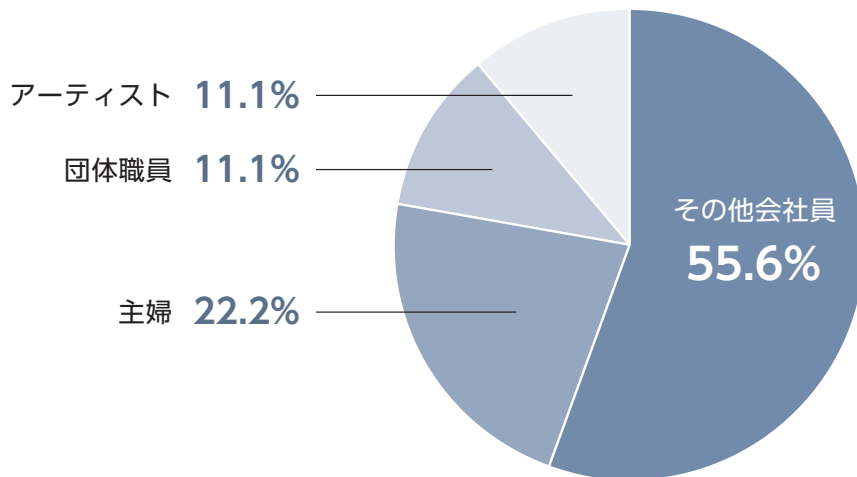
② 年齢（9件の回答）



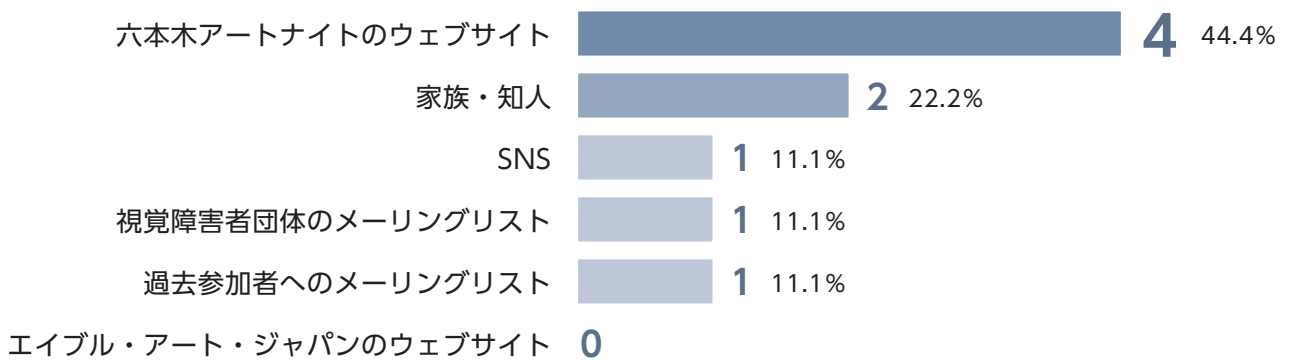
③ 居住地（9件の回答）



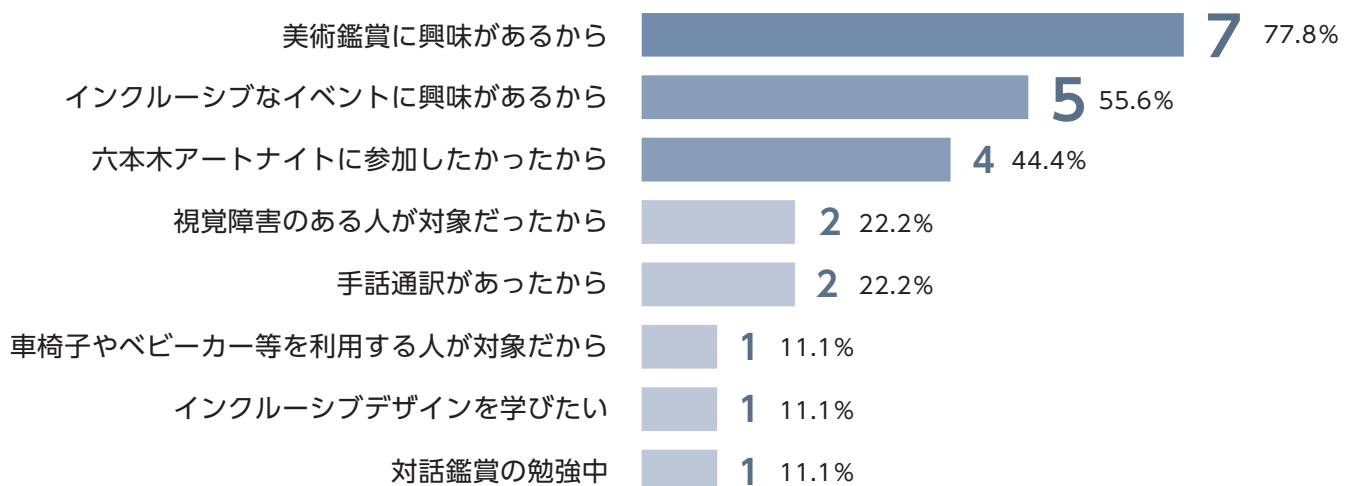
④ 所属 (9件の回答)



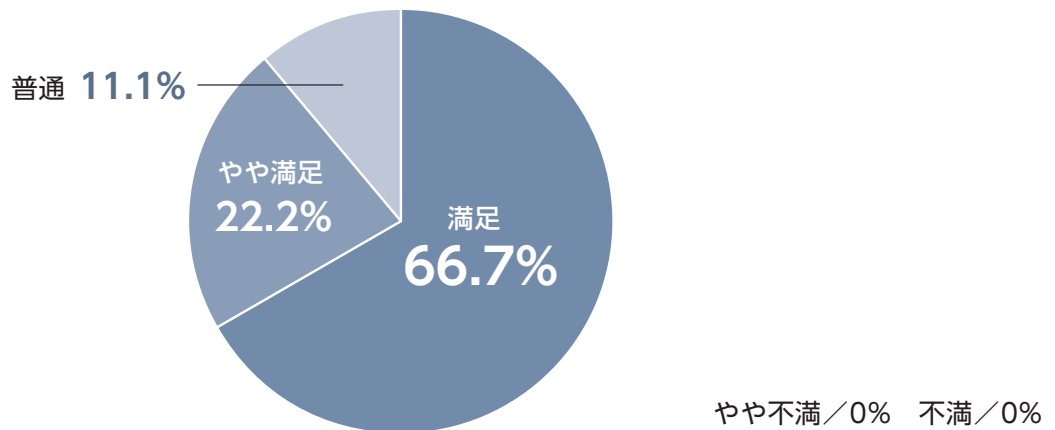
⑤ 本プログラムをどこでお知りになりましたか (9件の回答)



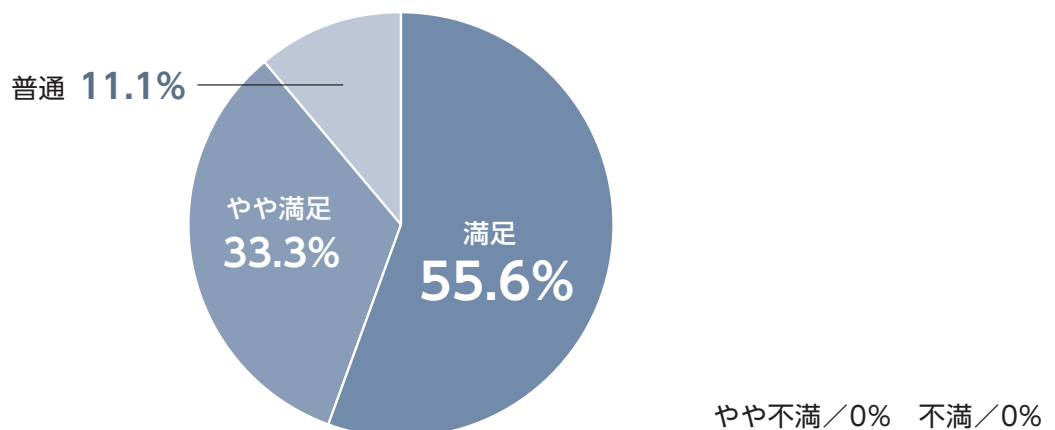
⑥ 本プログラムに参加しようと思った動機は何ですか (9件の回答)



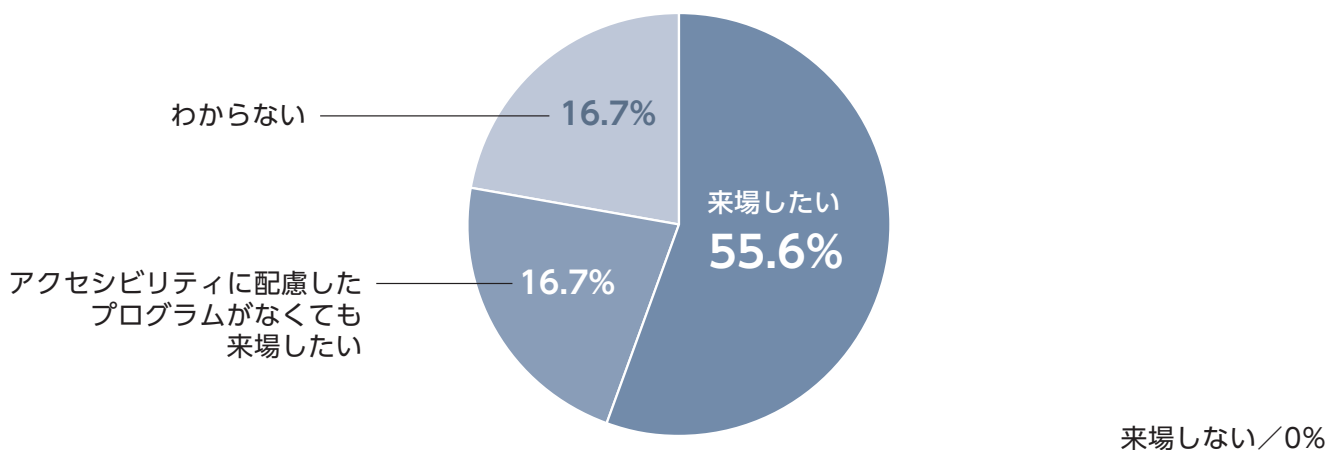
⑦ プログラムの内容についてお伺いします。
ツアーの長さ、ルートについてはいかがでしたか（9件の回答）



⑧ プログラムの内容についてお伺いします。
作品鑑賞についてはいかがでしたか（作品選定や鑑賞内容、鑑賞時間など）



⑨ 次回開催した場合「六本木アートナイト」に
アクセシビリティに配慮したプログラムがあれば来場して頂けますか



プログラムの内容について、 よかったところ・改善できそうなところがあればご記入ください

- ・聴覚障害の方から視覚障害からみてドラえもんの声を言葉で表現してください、との問いかけにハッとさせられました。
- ・視覚障害側から美術作品の視覚的情報をみなさんから頂けるよう問いかけをすればよいのだと気付かされました。
- ・天候が悪く主に室内鑑賞だった。屋外だったら、どのような作品かは分かりませんが、4作品ぐらい鑑賞したかったと感じた。
- ・ドラえもんのブースでは、小さな6つのドラえもんに関して作品情報があまりわかりませんでした。パンフレットには書いてあったようですが、視覚障害の者にとってはちょっと情報を取りづらいかな、と思いました。
- ・よかったところ:一つの作品にじっくりとかんじられるところがよかった。
改善できそうなところ: どうしたらいいのかわからなくてももう少しゆっくり見たかった(個人のペースもほしい。特にドラえもん)。あと話をするときの立ち位置をもう少し整理してほしい。
- ・ちょうど良い長さ・ルートだと思いました。インカムがあってどこにいてもちゃんと聞こえた。
- ・人数はもう少し少ない方がより多くの話が聞けたかも。2グループに分けるとか。
- ・じっくりとお話ししながら進められてよかった。みなさんの様々な角度からの見方を知れてよかった。
- ・よかったところ:長さ、ルートなどツアーで回るにはちょうどよかった。手話通訳がよく見えた。様々な障害をもつ方とお話しして新しい感覚を受けた。
改善できそうなところ:他のツアーとぶつかる時、少々混み合った。
- ・皆さんの感想を聞ける環境がありよかった。一人の感想で終わらずに重ねて対話をしていく方法もしてみたい。
- ・最初と最後に、参加者全員の声を共有する時間があったことがよかった。
どんなかたとご一緒なのかということや、多様な価値観を共有できたことは、相互理解と豊かな鑑賞につながったと思います。

-
- ・ 作品のタイトルは作品を知る鍵であり重要な一部であると思うが、(聞き逃しかもしれないが)タイトル紹介がなかった作品もあったのが残念だった。
 - ・ 点字の地図は点字を習得していないとわからないので、点字の上に墨字で書かれていると、同行者に教えてもらいながら触れることができるので検討してほしい。
 - ・ とても楽しかったです。それぞれの視点、良いと感じるポイントが違うことが改めてわかりました。「インクルーシブ」というワードにひかれて伺いましたが、私自身気づかされることが沢山あり、とても充実した時間となりました。また機会がありましたら、ぜひ参加させていただけると嬉しいです。
 - ・ もう少しインクルーシブと言うから色々な見方ができるかなと思ったけど視覚・聴覚が中心になって、分かっているのを感じた。
 - ・ ガイドブックのマップがわかりにくいです。もっとピンポイントで示してもらえると助かります。
 - ・ 色々な方と話し合うツアーは面白かったです。
 - ・ 同行者はあくまで視覚障害者のガイドなので、名前の自己紹介だけで意見などは求めない方がよい。
 - ・ 前回オンラインで参加させていただき、現場の空気を感じながら鑑賞がしてみたくなり参加した。作品の大きさを体感し、作品の置かれた空間を感じ、参加者と会話するなど、美術館ではなく生活空間に展示された作品の鑑賞においては、鑑賞に伴い生じたこの諸々全てがリアルの醍醐味であり、鑑賞の意味であったと思います。
 - ・ 屋外などの大きな作品の場合、遠くから見た印象と近くから見た印象では異なると思うが、視覚障害があると近づきながら遠くからの印象を受け取ることができないためいったん遠くで見ている印象を感じ合ったうえで近づく、という対話鑑賞ができれば見えない私たちも美しさのもつ力にもう一度近づけるかもしれない、と思います。

六本木アートナイト 2022

■開催日時：2022(令和4)年9月17日(土)～9月19日(月・祝)10:00～22:00(※19日のみ18:00まで)

※9月3日(土)～一部作品は先行展示

■開催場所：六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21DESIGNSIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

デジタル(公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】)

公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>

公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight

■主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、

六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】

■助成：令和4年度文化庁国際文化芸術発信拠点形成事業

インクルーシブ・アート・プログラム 報告書

発行：六本木アートナイト実行委員会

〒106-6150 東京都六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

森ビル株式会社 森美術館内

URL：<https://www.roppongiartnight.com/2022/>